

旭市公共下水道事業経営戦略（案）【概要版】

1. 経営戦略策定の趣旨・・・P1-3

経営戦略は、将来にわたり安定的に事業を継続していくための収支均衡を図る中長期的な経営の基本計画となります。

本市においては、平成 29 年 3 月に「旭市公共下水道事業経営戦略」を策定し、本年度 8 年が経過しました。今回、これまでの取り組みを評価するとともに、見直しを行った「旭市汚水適正処理構想」や「旭市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づく投資計画を反映し、様々な社会情勢の変化に伴う財政計画の見直し等も踏まえた実効性のある計画とするため、本計画の見直しを行いました。

計画期間は、令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年間とします。また、長期目標を設定するために、令和 7 年度から令和 56 年度の 50 年間で試算期間としました。

2. 事業の現状（令和 5 年度末時点）

(1)事業の概要・・・P4

平成 11 年度に終末処理場（旭市浄化センター）、平成 23 年度にポンプ場（旭中央汚水ポンプ場）の供用を開始し、平成 27 年度には 202ha の面整備が完了しました。

平成 28 年度以降は、人口減少等の社会情勢の変化を踏まえて、新規の面整備を休止し、整備済区域内の水洗化の向上を図ってきました。

区分	項目	単位	旭処理区
供用開始年度			平成11年度
計画値	全体計画人口	人	4,900
	全体計画面積	ha	230
令和5（2023）年度末 現状値	行政区域内人口	人	62,280
	処理区域内人口	人	6,509
	水洗化人口	人	4,870
	行政区域面積	ha	13,047
	処理区域面積	ha	202
	普及率	%	10.5
	水洗化率	%	74.8

(2) 公共下水道事業の課題・・・P15

使用料で回収すべき経費を、使用料で賄いきれておらず、一般会計繰入金に依存しているため、経費回収率の向上および基準外繰入金の縮減が課題です。

令和 5 年度実績	経費回収率	42.53%（類似団体平均値 84.48%）
	使用料収入	111,952 千円
	基準外繰入金	250,823 千円

※類似団体…総務省の令和 5 年度「経営比較分析表」類似団体区分の Cc2

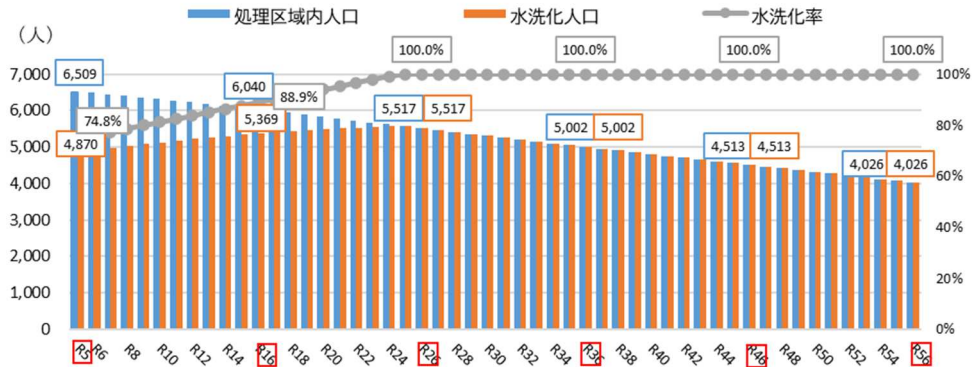
（処理区域内人口 3 万人未満、処理区域内人口密度 25 人/ha 以上、供用開始 15 年以上）

3. 将来事業環境の見通し

(1) 水洗化人口と水洗化率の見通し・・・P17

水洗化人口は水洗化率の上昇を見越しているものの、それ以上に処理区域内人口の減少が進行するため、令和 24 年までは増加しますが、長期的には減少する見通しです。

水洗化人口の減少に伴い年間有収水量も減少、使用料収入の減少が予測されます。



※数値の表示は、令和 5（2023）年度は実績値、それ以降は 10 年ごとの予測値を表示しています。

4. 投資・財政計画

(1) 収益的収支の見通し・・・P21

経費回収率は、令和 5 年度類似団体平均値 84%を目標とし、20 年間で目指すとししました。これに併せて使用料改定を行い、世代間の公平性を考慮し、令和 9（2027）年度に 29.9%の改定率を見込みます。その後は、緩やかに、5 年ごとの改定としました。使用料収入は、計画期間の 10 年間で約 360 百万円増加する見込みです。

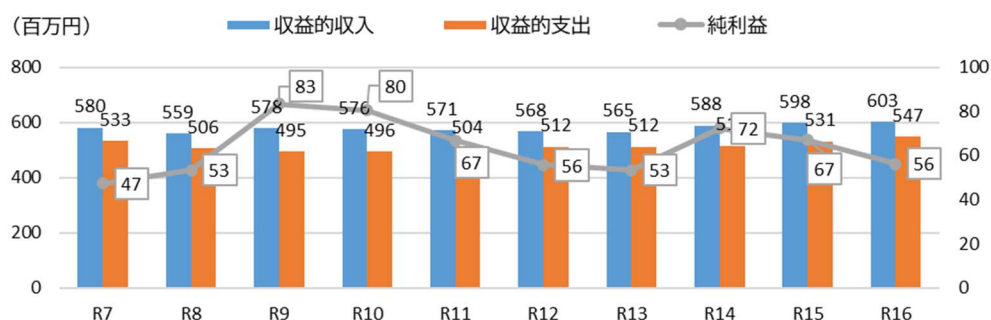
また、不足分を基準外繰入金等で補い、欠損金が発生しないように計画しています。

使用料（1 か月 20 m³あたり、税抜）改定の見込みは以下のとおりです。

	現状	令和 9 年度 (2027) ～	令和 14 年度 (2032) ～	令和 19 年度 (2037) ～	令和 24 年度 (2047) ～
条例上	2,500 円	3,247 円	3,745 円	3,803 円	3,893 円
実質的	3,449 円	4,479 円	5,167 円	5,246 円	5,370 円
改定率		29.9%	15.4%	1.5%	2.4%

※実質的な使用料とは、料金収入の合計を有収水量の合計で除した値に 20 m³を乗じたもの

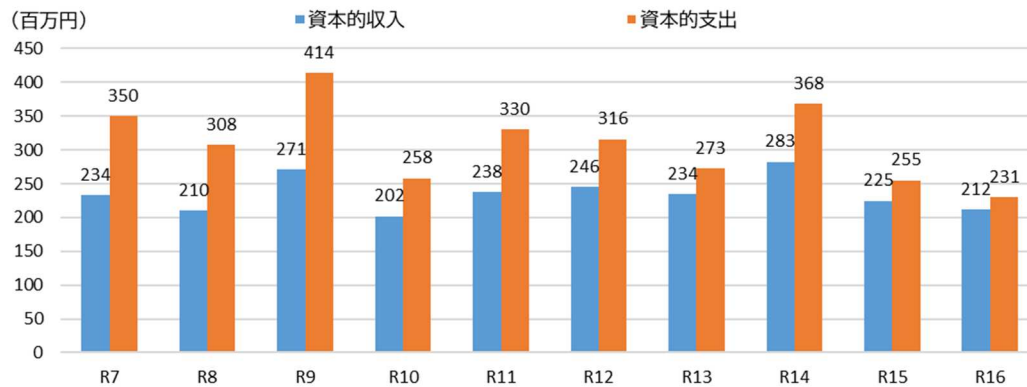
※このとおりに使用料改定を決定したものではありません。



(2) 資本的収支の見通し・・・P24

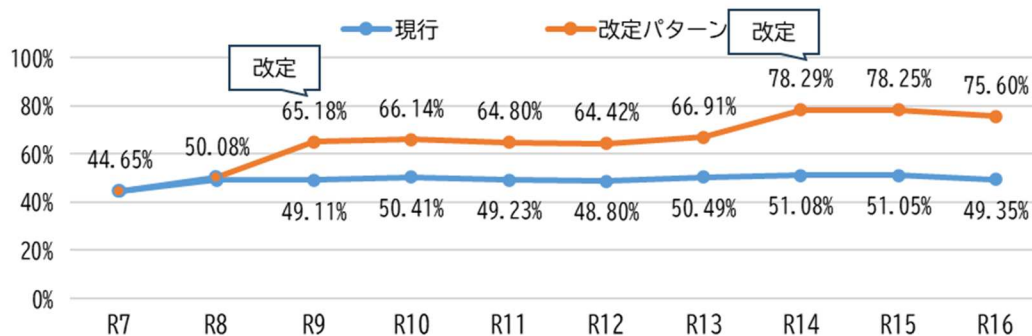
収入は、改築、更新工事が予定されている年度は、建設改良費の増加に比例して企業債が増加します。

支出は、企業債償還金の償還が進むにつれて減少しますが、改築や更新工事が予定されている年度は、建設改良費の増加が見込まれます。

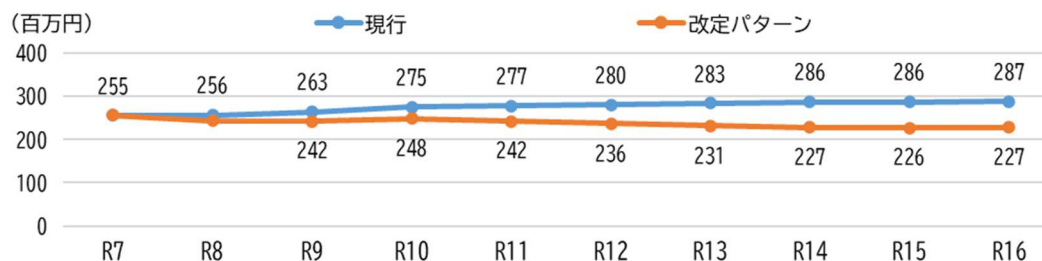


(3) 経営の健全性・効率性・・・P28, 29

現行の使用料を維持した場合と改定した場合の経費回収率は、以下の通りです。令和9（2027）年度改定では約60%、令和14（2032）年度改定では約66%まで改善する見込みです。



使用料で回収できない污水处理費は、基準外の一般会計繰入金により賄っており、基準外繰入金は、以下の通りです。



5. 経営基盤強化に向けた基本方針

(1) 基本方針・・・P31

- ① 安定した経営
- ② 水洗化率向上及び使用料適正化による自主財源の確保
- ③ 効率的な点検整備による支出の抑制

(2) 経営目標および健全化、効率化のための取組・・・P31

- ① 組織及び人財 （「旭市定員適正化計画」に基づく、適正な定員管理など）
- ② 民間活用 （ウォーターPPPの導入に向けた調査、検討など）
- ③ 収納率の向上と滞納額の縮減 （徴収対策室、税務課等との連携など）
- ④ 水洗化の促進 （未接続者への戸別訪問等による接続の促進など）
- ⑤ 使用料適正化の検討 （使用料水準の適正化、使用料体系の見直し）
- ⑥ 経費削減 （省電力設備の導入を検討など）
- ⑦ 資金管理調達 （計画的な起債による企業債残高の削減など）

(3) 経費回収率の向上に向けたロードマップ・・・P34

今後、人口減少に伴う使用料収入の減少並びに管路施設の老朽化及び物価上昇による維持管理費の増加により、経費回収率の低下が予測されます。適正な経営を維持するため、経営戦略改定のタイミングで少なくとも5年に1度、使用料のあり方を検討します。

取組内容	2025 令和7年	2026 令和8年	2027 令和9年	2028 令和10年	2029 令和11年	2030 令和12年	2031 令和13年	2032 令和14年	2033 令和15年	2034 令和16年
経営戦略計画期間										
経営戦略改定					改定					改定
下水道使用料の適正化	検討		●改定			検討		●改定		検討
収納率の向上と滞納額の縮減										
水洗化率の促進										
ストックマネジメント計画による更新 老朽化した管路の更新										
民間活用や省電力設備導入の検討による 経費の削減										

(4) SDGs 達成に向けた施策の推進・・・P35

下水道サービスを安定的に提供し、衛生的な生活環境を守り、持続可能な取り組みを推進します。

「安全な水とトイレを世界中に」



6. 経営戦略の事後検証、改定などに関する事項・・・P36, 30

本経営戦略については、PDCA サイクルに基づき、計画の策定（Plan）/事業の実行（Do）/達成度の評価（Check）/改善（Action）を行い、フォローアップしていきます。達成度の評価及び改善については、モニタリング及びローリングにより実施します。

モニタリングは、投資計画の進捗確認と財政状況の確認を毎年度実施します。

ローリングは、おおむね5年ごとに本経営戦略の見直しを行います。

項目	単位	望ましい動き	令和5(2023)年度		令和11(2029)年度目標	令和16(2034)年度目標
			実績	類似団体平均値		
経営の健全性	経常収支比率	↑	117.09	106.87	113.24	110.28
	累積欠損金比率	↓	—	21.73	—	—
	流動比率	↑	72.92	62.37	150.73	356.88
	企業債残高対事業規模比率	↓	—	1,042.77	—	—
経営の効率性	経費回収率	↑	42.53	84.48	64.80	75.60
	汚水処理原価	↓	405.48	187.11	345.63	341.70
	水洗化率	↑	74.82	79.70	82.50	88.89
その他	企業債残高	↓	2,269	—	1,462	1,330
	一般会計からの繰入金	↓	400	—	365	339
	基準外繰入金	↓	251	—	242	227